

平成30年度 校内研修計画

1 昨年度の取組より

昨年度研修テーマ「自ら学ぶ」生徒の育成～「つながり」を意識した学びの場づくり～(2年次)～

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ○「つながりを意識した振り返り」実施による授業改善への意識の向上 ○授業の中で、生活班による話し合い活動の実施 ○校内授業研究会の積極的実施(ユニット型研修、授業公開) ○周陽自学スタンダードの全校実施 ○自学ノートの取り組み方が全体的に向上 ○自学応援し隊による、全教職員による自学ノートのチェック 	<ul style="list-style-type: none"> ○「言語活動の充実」についての教科ごとの研修(特に説明を書くこと) ○「振り返り」「授業評価」の継続実施と効果的方法の検討 ○自学タイムや自学ノートとのリンクを意識した授業づくり ○真の学力向上につながる自学ノートの取組

2 今年度の学校教育目標

「心身ともにたくましく 自ら学び 共によりよく生きようとする生徒の育成」

↓

- 自ら進んで学ぼうとする生徒
- 知識や技能を活用し、考え・判断し、表現する生徒
- 学んだことを生活に生かそうとする生徒

3 研究主題

**「自ら学ぶ」生徒の育成
～「つながり」を意識した学びの場づくり～(3年次)**

4 キャッチフレーズ

RPDCAで「わかる・できる・伸びる・楽しい！」

R…Research	課題の把握
P…Plan	計画
D…Do	実行
C…Check	評価
A…Action	改善

Recognition (再認識) Review (見直し)

Research (調査研究) Reflection (省察)

5 研究仮説

授業や特別活動等の中で、生徒と生徒、教師、教材などとのつながりを意識して、学びの場を仕組んでいくことによって、生徒が自らRPDCAを意識して「わかる・できる・伸びる・楽しい」を実感し、自ら学ぶ生徒を育成することができるだろう。

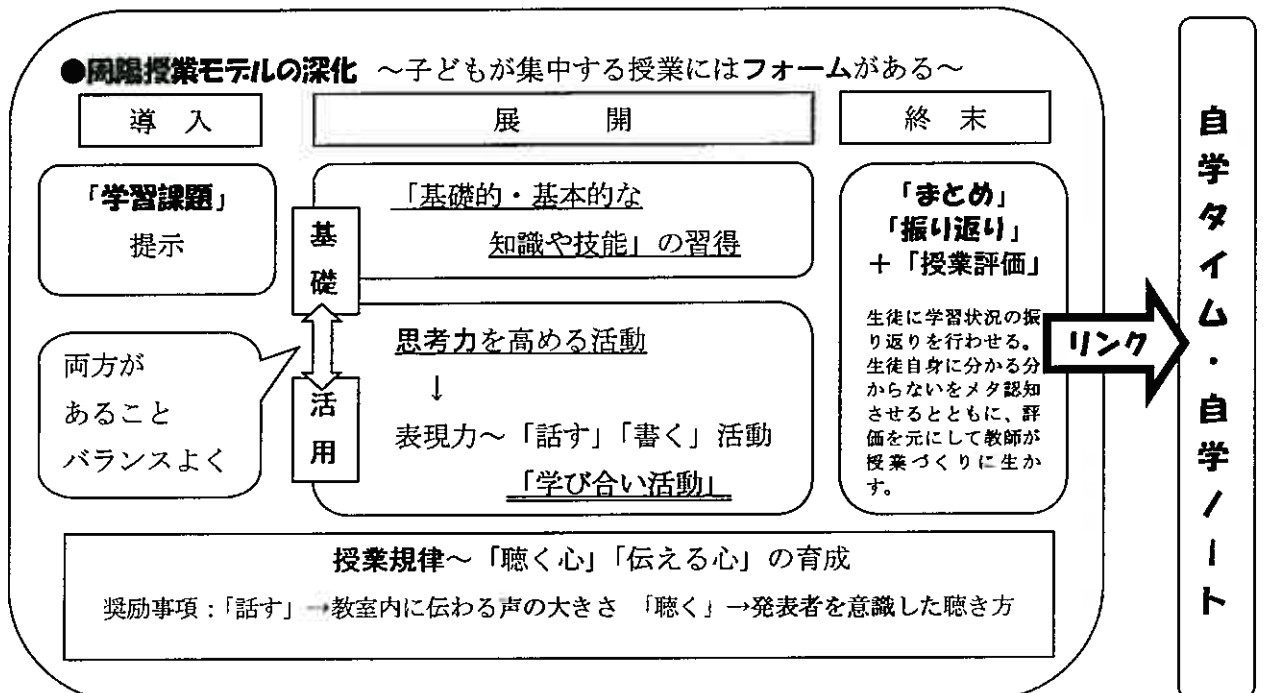
6 研修内容・方法

RPDCAサイクルを意識して研修に取り組むことで、研究主題の達成に迫る

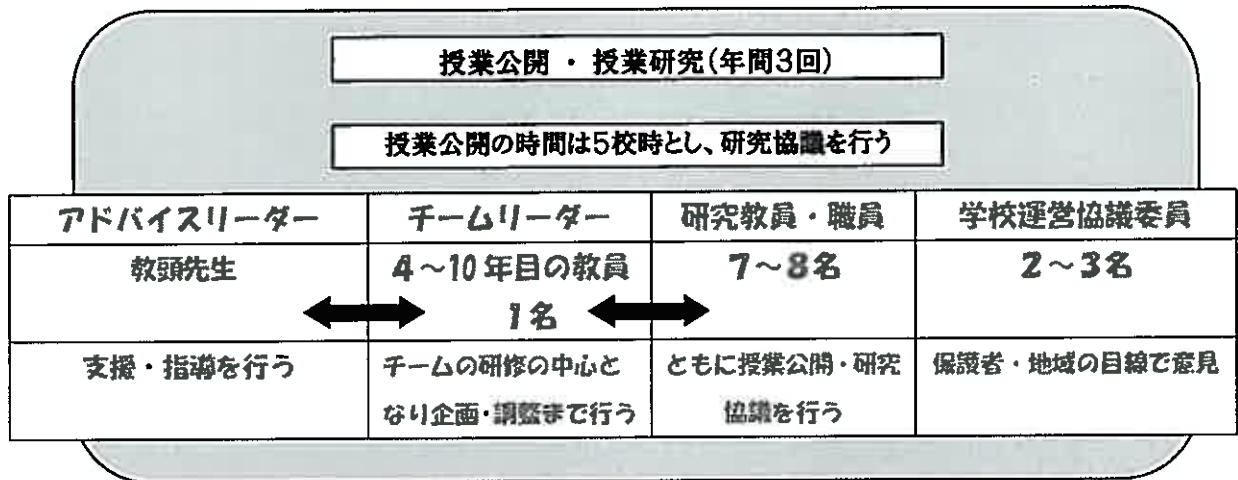
検証改善サイクル	生徒	教師
R 課題の把握	「授業の振り返り」で学習状況の自己評価 ～分かったこと・分からなかったことの把握～	「前年度の振り返り」を分析し、現在の自分の得意と苦手を確認把握
P 計画	「自学タイム」で家庭学習の計画立案	「自己目標シート」で授業力向上のための自己目標の設定
D 実行	「自学ノート」で家庭学習の充実	「日々の授業」「授業公開」で自己目標に添った実践
C 評価	「自学ノートの振り返り」で達成状況をチェック	「生徒の振り返り」で授業の振り返り
A 改善	「翌日の授業、家庭学習」で学習の取り組み方を見直し、改善	『C評価』をもとにしなが授業改善を行い、よりよい授業実践へ

①「授業」

- ・周陽授業モデルの実践→学習課題の提示・まとめ、振り返りの充実、言語活動の充実
- ・「自学タイム」「自学ノート」へのリンクを意識した授業づくり
- ・「振り返り」「授業評価」の完全実施



- ・人材育成、コミスク充実、小中連携の視点による「授業公開」システムの拡充
- 授業公開チームにはコミスクの視点を取り入れるために、学校運営協議委員の方にも参加していただき、幅広い視点で学力の向上、心豊かな生徒の育成につなげていく。



②「自学タイム」

- ・周陽自学スタンダードの全校実施・徹底
- ・効果的な実施時間の検討
- ・自学タイムの充実（昨年度の取組に改善を加えながら、より充実した時間へ）

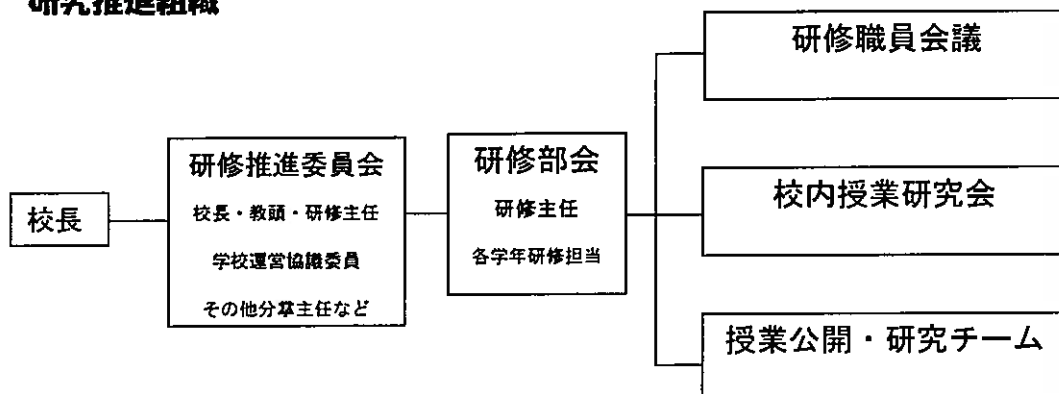
③「自学ノート」

- ・大学ノートの利用による家庭学習の充実（振り返りからつながる家庭学習）
- ・自学応援隊の継続
- ・真の学力向上につながる自学ノートのあり方について（自学1ページで家庭学習を終わらせないこと）

④「その他研修の充実」

- 1 教科部会での、「言語活動の充実」について、研究を進める。（特に「書くこと」について）
- 2 「道徳」「特活」「特別支援」「部活動」「復伝」など、様々な内容を研究内容として取り上げ、幅広く研修を行い、教師力の向上を目指す

7 研究推進組織



平成30年度校内研修年間計画

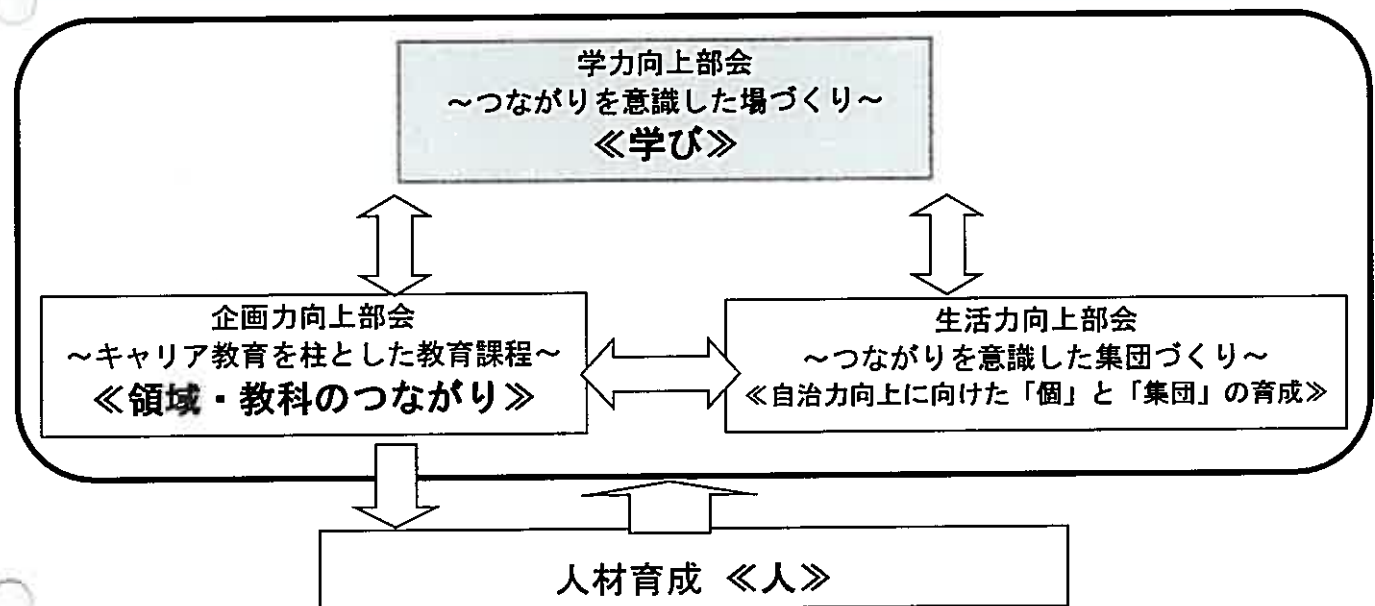
月	日	企画力向上部会	学力向上部会	生活力向上部会
4	4	・研修計画共通理解	・研修計画共通理解 ・求める生徒像のイメージ共有 ・周陽授業モデル (板書型指導案・振り返りの充実も含む) ・ユニット型研修	・研修計画共通理解
	5		・自学スタンダード ・生活班を生かした言語活動	
	6			・緊急時対応研修
	16		・教科部会(学力向上プラン・振り返りシート・言語活動の充実・書くことの充実)	
5	9		・自己目標シート作成 ・学力向上プラン完成 ・自学応援し隊(5月始めから5月末まで)	
	31	・網紀保持		
6	22		・ユニット研「道徳」 授業研究会 「指導者による講話」	
8	2 6 29		・小中合同研修会 ・全国学調結果共有 ・特別支援教育 「指導者による講話」	・緊急時対応研修
10	10	・網紀保持(職員会)	・ユニット研 授業研究会 ・自己目標シート追記 ・人権参観日の授業について ・自学応援し隊(10月始めから10月末まで)	
	12			
	17			
12	21			・緊急時対応研修
1	30	・網紀保持	・自己目標シート完成 (面談後提出)	
2	27		・ユニット研 授業研究会	
3	13		・学力向上プラン完成 成果と課題 ・年度末反省と来年度の提案	

「自ら学ぶ」生徒の育成 ～「つながり」を意識した学びの場づくり～

【研究仮説】

学校教育目標の「共によりよく生きようとする」という共生の部分に着目し、「つながり」をキーワードとした校内研修を全教職員で行うことで、教育活動における様々な場面で「ヒト・モノ・コト」などとの関わり合いを通し、学びに対する興味や関心を一層引き出し、意欲を高めることができるだろう。特に授業においては、教師とのつながりだけでなく、仲間とのつながり、教材とのつながりなど、幅広いつながりを意識して授業づくりを行うことで、生徒たちは自らやる気スイッチを押せるようになり、豊かな学びを体験することができるだろう。

カリキュラム・マネジメントによる「つながる」校内研修



キャリア教育を柱とした教育課程「領域・教科のつながり」を提案している企画力向上部会と、つながりを意識した集団づくりにより「個」と「集団」を育てる生活力向上部会の取組とリンクしながら、研修ではつながりを意識した生徒たちの「学び」を研究し、高めていきたいと思えます。また、教員同士のつながりによる人材育成を図り、個々の教師力を高めると同時に、学校の活性化・組織力の向上につなげたいと考えています。

具体的取組として…

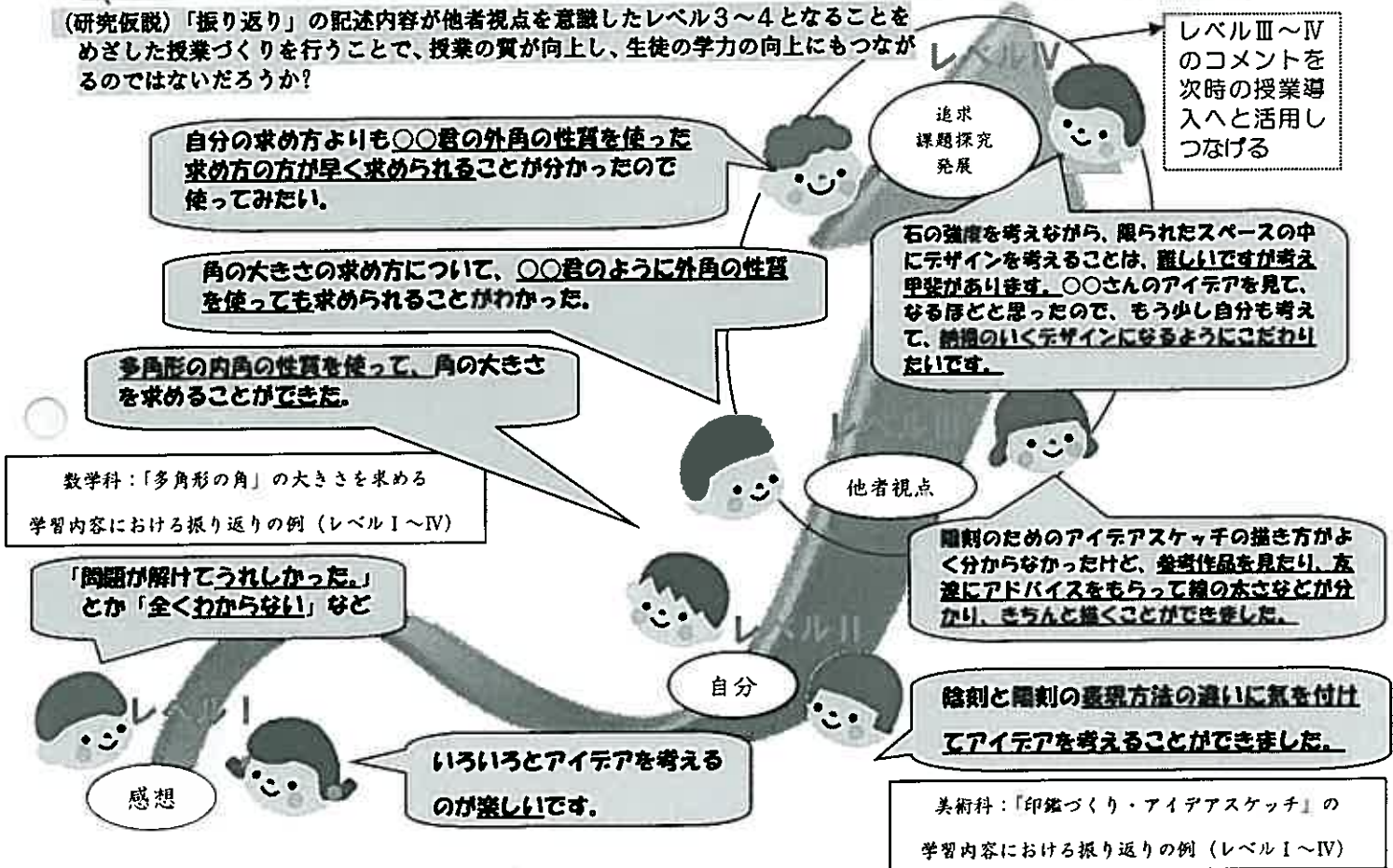
「3つの視点」で研究主題を追求

視点1 「授業」

① 振り返りの充実とつながる授業づくり

「振り返り」による【つながり】と【他者視点】を大切にした授業づくり

(研究仮説)「振り返り」の記述内容が他者視点を意識したレベル3~4となることをめざした授業づくりを行うことで、授業の質が向上し、生徒の学力の向上にもつながるのではないだろうか?



② 校内授業研究会・研修委員会の充実

- ・9教科以外の教育活動を幅広く取り上げた授業研究会や研修委員会を実施する
(道徳や学活、生徒指導や学級経営など人材育成の視点からも全教職員で研修を行う)

③ ユニット型研修の継続と深化

- ・授業研究や参観の視点を固定化して研修を深める

視点2 「人」

① ヒト・モノ・コトのつながりによる言語活動や学び合いの充実

- ・各クラスの生活班を中心とした言語活動のあり方について研修を深める
→ヒト=教師や仲間同士のつながり モノ=教材・資料などとのつながり
コト=授業・行事・学校生活などとのつながり

② 人材育成

- ・校内授業研究会や研修委員会、ユニット型研修を利用して教員同士のつながりによる人材育成の場をつくる

視点3 「家庭学習」

- ① 日々の授業における学ぶ意欲の向上からつながる家庭学習の充実
 - ・周陽授業モデルを軸とした授業づくりの継続
 - ・「分かる」「できる」授業づくりで家庭学習へのやる気につなげる
- ② 自学タイム・ノートの深化と進化による家庭学習の充実
 - ・周陽自学スタンダードの徹底を継続
 - ・周陽みんなで応援し隊（自学ノートチェック）の周知徹底
 - ・自学タイム・ノートの活用を通して、生徒一人ひとりが自分に合った学習方法を探し、見つけることができるような手立ての工夫

私たちが目指す生徒たちの姿は…

今日の国語のグループ活動で、私の意見がみんなにほめてもらえて嬉しかったな！みんなの意見を聞き合うことで、分からなかったことが分かるようになったし、そういう考え方もあるのか～って、びっくりした！！何だか勉強することが楽しくなったな！よし、今日の自学は明日の国語の予習をしようかな？



今日は、美術の時間に見たみんなのアイデアスケッチがすごかったな～。こうしたらいいよってアドバイスももらったし、今のより、次はもっといいものを考えてみよう！ちょっと、家で考えてみようかな。

なんか最近、発表することが好きになってきたな。自分の意見が言えるとすっきりするし、間違えても周りのみんなが優しいから、安心だし！積極的に意見が言えるようになったら、授業も楽しくなってきたし、クラスみんなとも何だか遠慮なくしゃべれるようになってきたな。



まだまだ積極的に意見が言えなくてグループ活動が嫌だな…。でも、いつも班長の〇〇さんが、分かりやすく教えてくれるから安心。この間はちょっとしかしゃべれなかったけど「その意見いいね」って言ってくれて嬉しかったな。もっと、意見が出せるように頑張ってみようかな…。

授業や仲間との「つながり」によって
自らやる気スイッチを押し、豊かな学びを体験する生徒

授業づくりのスタートライン — 中学校 —

周南市教育委員会

押さえておきたいポイントおよび留意事項	
導 入	<p>① 授業のめあて または 学習課題 を明確に示す</p> <p>○ 「授業のめあて」・「学習課題」は、単なる単元名ではありません。本時に是非とも身に付けさせたい知識・技能等が生徒に伝わるように授業のねらい等を工夫しましょう。</p>
展 開	<p>② 授業のめあての達成や学習課題の追究に向けての 主発問 をする</p> <p>○ 主発問に対して、生徒一人ひとりに自分の考えをもたせましょう。</p> <p>③ 授業のめあての達成や学習課題の追究に向けた 活動 を仕組む</p> <p>○ 思考力・判断力・表現力を育成するために、言語活動を積極的に取り入れましょう。ただし、言語活動を行うことは目的ではなく、あくまでも教科の目標を達成するための手立てです。</p>
ま と め	<p>④ 授業のめあてや学習課題に対応した まとめ を行う</p> <p>○ 本時で学びとらせたいことを、教師が一方的にまとめるだけではなく、生徒一人ひとりに自分の言葉でまとめさせるなどの工夫も大切です。</p> <p>⑤ 授業の 振り返り を行い、学習内容の定着を図る</p> <p>○ 特に重視するところです。授業の導入からまとめまでを振り返り、家庭学習につなげる工夫をしましょう。</p>
全 体	<p>○ 構造的な板書（学習したことがよく分かる板書）になっているか確認してみましょう。</p> <p>○ 周南市教育委員会の示す「生徒指導の3機能」の視点から見直してみましょう。 ・ 自己存在感 ・ 自己決定の場 ・ 共感的な人間関係</p> <p>○ 特別支援教育の視点から見直してみましょう。 （例）指示は短く、はっきりと、落ち着いた口調で など</p>

※ 上記の「押さえておきたいポイント」をふまえ、各教科の特性に応じて授業をデザインしましょう。

話し合い活動のスタートライン

周陽中学校

	押さえておきたいポイントおよび留意事項
課題設定	<p>① 話し合いのテーマ を明確に示す</p> <p>○ 何のために話し合うのか、テーマや目的が明確に示されないと、話の中心が定まらず、話し合いの質を高めたり深めたりすることができません。生徒が自ら話し合いたいと興味をもって取り組むことのできるテーマを設定することも大切です。</p>
準備	<p>② 個人の考えをまとめる 時間の確保 をする</p> <p>○ 生徒一人ひとりが自分の考えをもつために適切な時間を設定しましょう。意見の根拠を明確にさせておくことも、話し合いを円滑に進めるためのポイントです。</p> <p>③ 話し合いの 方法や手順、役割分担等 に関する指導をする</p> <p>○ 話し合い活動に慣れない内は、必要な手順や役割分担等についてあらかじめ指導しましょう。グループ内の役割を決めておくこと、活動に入ってからスムーズに話し合いを進めることができます。</p>
活動	<p>④ 活動の様子を 見取る とともに、適切な指導支援 を行う</p> <p>○ 各自が自分の役割をちゃんと果たし、個の意見を尊重しながらグループ全体の意見をまとめようとしているかを確認しましょう。活動が停滞しているグループに対しては、課題を見取り、適切な指導・支援に努めることも必要です。</p>
まとめ	<p>⑤ 発表された内容の 価値づけ を行う</p> <p>○ 全体での共有や相互評価を行い、活動の価値づけを行いましょう。</p> <p>○ 振り返りで生徒による授業評価を行い、教師のねらいと生徒の活動がマッチングしていたかを確認するとともに、成果と課題を把握することが、授業改善のポイントです。</p>
全体	<p>○ 周南市教育委員会の示す「生徒指導の3機能」の視点から見直してみよう。 ・自己存在感 ・自己決定の場 ・共感的な人間関係</p> <p>○ 特別支援教育の視点から見直してみよう。 (例) 指示は短く、はっきりと、落ち着いた口調で など</p>

※ 上記の「押さえておきたいポイント」をふまえ、各教科や領域の特性に応じて話し合い活動をデザインしましょう。

「周陽自学スタンダード」について

～自学タイム・自学ノートを充実させるために～

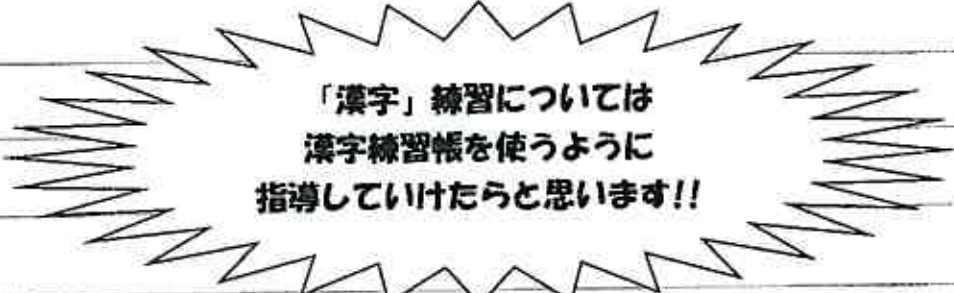
周陽中研修部

1 ねらい 「チーム周陽」の全教職員で自学タイムや自学ノートの取組を指導し、環境を整えることで、自らやる気スイッチを押すことのできる「自ら学ぶ」生徒を育成することにつながる。

2 内容や方法

職員体制	<p>【自学タイム時】※自学タイム時に配布物などを配らない 担任……各自クラスの指導。 副担任…基本的には所属学年の指導に加わる。指導の仕方などについては各学年の現状に合わせて行う。 4年部…基本的には各自授業を担当している学年部の指導に加わる。加わり方については各学年の現状に合わせて行う。</p> <p>【チェック体制】※必ず毎日担任、もしくは副担任が目を通す ・全員提出を基本とする。ただし、提出方法や時間については各クラスの工夫があつてよい。 ・担任がチェックを行うが、出張などで不在の場合は副担任などが行い、毎日継続して提出できる環境をつくる。 ・毎学期、担任以外の教員がチェックを行う→『自学応援し隊』 →今年度は全学期、全学年副担任・校長、教頭、教務の先生方に自学ノートを交代でチェックしていただく機会を設ける</p>
取り組む時間	<p>・5分間（たかが5分、されど5分） →今年度は、実験的に期間を限定して、少し時間を延ばして実施・検証を行いたい</p>
自学タイムで取り組ませること	<p>・4点セット（日付、教科名、学習内容、予定時間）を記載することを指導。 ・4点セットが記入できた生徒は、自学に取り組ませる。 ・ふれあいノートはこの時間に記入させない。終学活の中で時間をとるようにする。</p>
自学ノートの使い方について	<p>・現在使用している大学ノートを引き続き使用する。ただし、文字の大きさなどを制限する。（1行1文字） ・漢字は国語科で取り組んでいる漢字ノートに取り組ませる。 →今年度は、自学ノートの取組の終わりには、「かかった時間」「振り返り」を記入させることを徹底させたい。</p>

3 自学ノートの使い方

① 日付	② 教科名	③ 学習内容 (目標)	④ 予定時間
周陽中学校 3 - 3 - 1 ABCabc			文字は 1 行内に記入。
 <p>「漢字」練習については 漢字練習帳を使うように 指導していかれたらと思います!!</p>			
		⑤ かった 時間	⑥ 振り返り

※①～④は 5 分間の自学タイムで記入

※⑤、⑥は学習終了時に記入